

NEWS LETTER

中学校部活動の地域連携及び
地域移行におけるリーフレット
VOL.7
令和7年3月26日
多摩市・多摩市教育委員会

第7回 部活動地域連携・地域移行協議会を終えて

令和7年2月14日(金)に第7回部活動地域連携・地域移行協議会を開催しました。協議会では、東京都が中学校第2学年の生徒と保護者及び教員に実施した「未来へ つなぐ 部活動改革 アンケート」の集計結果について、東京都と多摩市の回答及び多摩市の前年度と今年度の回答を比較し、特徴的な傾向を確認しました。次にくらしと文化部から多摩市部活動地域連携・地域移行に関するアンケート調査結果の最終報告を行うとともに、次年度以降のモデル事業の実施の検討をしました。次年度も多摩市の実態を踏まえ、地域連携・地域移行について協議を続けます。

東京都教育委員会「未来へ つなぐ 部活動改革 アンケート」集計結果（令和6年7月実施）

このアンケートの回答率については、東京都の生徒の回答が28.0%に対して、多摩市の生徒の回答が69.1%でした。東京都の保護者の回答は15.0%に対して、多摩市の保護者の回答は16.6%でした。以下にこのアンケートの回答の一部を生徒、保護者、教員のそれぞれの回答から抜粋して掲載します。

生徒回答	回答の傾向
①部活動を通じて得たいことは何ですか。 【1位】 楽しさ 80.3% 【2位】 技能向上 75.8% 【3位】 仲間との交流 66.0%	① 昨年は「技能向上」が1位だったが、今年は楽しさが1位である。
②部活動を地域に移行することについて知っていますか。 「知っている」 【多摩市】 18.4% 【東京都】 23.0%	② 「知っている」と回答した多摩市の生徒の割合は、東京都よりも低い。

協議会の意見

- 東京都が行ったアンケートの質問「部活動を地域に移行することについて知っていますか」について、多摩市の生徒が「知っている」と回答した割合は、東京都と比較して18.4%と低かったが、保護者が「知っている」と回答した割合は、多摩市において72.8%と、東京都の67.5%より5%ほど高く、地域移行について認知度が高かった。これは、NEWS LETTERの配信の効果と考えられる。児童・生徒向けのNEWS LETTERなどの発信を検討する必要がある。

保護者回答	回答の傾向
① 部活動を通じて得てほしいことは何ですか。 【1位】 楽しさ 94.8% 【2位】 仲間との交流 77.9% 【3位】 自信 61.0% 【4位】 礼儀 60.4%	① 回答は、都の傾向と同様である。
② 専門的な指導を受けさせたいですか。 「思う」「やや思う」【多摩市】 86.4%(昨年 82.7%)	② 多くの保護者が専門的指導を受けさせたいと回答している。
③ 部活動を地域に移行することについて知っていますか。 「知っている」 【多摩市】 72.8% 【東京都】 67.5%	③ 都平均よりも多摩市は5.2%ほど高い（去年の多摩市よりも12.1%上昇）
④ 活動費についてはどれくらい負担をしていますか。 「月2500円以内(部費)」 83.1% 「月2500円以内(部費以外)」 86.2% 「月2501円～5,000円以内(部費)」 1.3% 「月2501円～5,000円以内(部費以外)」 11.6%	④ 保護者の負担する活動費は月5000円以内が多い。

(※部費以外とは、交通費やユニフォーム・練習着・大会参加費等のこと)

協議会の意見

- 保護者は、学校にいるから安心して部活動をさせている面もある。部活動には、生徒が自分の好きなことを同じ学校の仲間と行うことや、仲間意識の芽生え、チームプレイという点においても意義深いものがあると感じる。保護者の中には、地域移行について詳しく知りたいという人もおり、地域移行が実現したときの保護者と学校との関わり方について関心がある。

教員回答	回答の傾向
<p>① 自分の専門ではない部活動について、指導や運営に携わりたいか。 【多摩市】「携わりたくない」 79.8% 【東京都】「携わりたくない」 79.3%</p> <p>② 現状の部活動で困っていること 【多摩市】 校務多忙 56.2% 趣味・研究 49.4% 休みが少ない・少ない 39.3% 技術指導 37.1% 【東京都】 校務多忙 54.4% 趣味・研究 46.1% 休みが少ない・少ない 37.5% 技術指導 39.0%</p> <p>③ 現在の部活動の指導や運営により、どのような業務に支障があるか ・生徒指導 52.8%(不登校、いじめ、生活指導) ・教員連絡 46.1%(受験関係)</p>	<p>① 都と同様の傾向である。</p> <p>② 多摩市の教員の負担感は、校務が多忙であること、趣味・研究が十分でないこと、休みが少ない、ないことについて負担を感じている。</p> <p>③ 生活指導や受験に関する指導にかける時間が十分でない。</p>

協議会の意見

- アンケートの結果に教員の負担感が表れていた。平日についても地域連携をして、先生方の業務に支障がない活動をするよう環境を整えることが必要であり、休日の地域移行について進めていくことが必要だ。
- 質問「教員が自分の専門ではない部活動について、指導や運営に携わりたいか」について、約80%の教員が携わりたくない」と回答している。これは、教員の意識の変化が表れており、部活動の指導が当たり前でないという認識が広まっている。他地区で既に地域移行されていることを教員間で聞くことがあると、携わりたくない」と考える教員が増えるのではないかな。

多摩市くらしと文化部「多摩市部活動地域連携・地域移行に関するアンケート調査結果(令和6年11月～令和7年1月実施)」を踏まえた協議会での意見

協議会の意見

- 実施可能な地域受け入れ団体で始めて、成功事例を作ることが大事なところではないか。子どもたちの立場に立って考えたときに、部活動によって、現在の活動を維持しやすい部活動と継続が困難な状況にある部活動に分かれると考える。
- 今回、アンケート調査をして課題や検討事項はあるが、中学生を受け入れることができるという団体が多いことが分かった。スポーツ団体の受け入れに対する前向きな意見が多く、心強い。
- 地域移行のモデルケースとして、維持が難しい部活動から取り組んでいくか、個人的な技能を高めるという視点から取り組んでいくかなど、今後の事業の在り方を検討する必要がある。

来年度の取組

R7年度(改革推進期間3年目)

多摩市「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」令和6年9月策定より以下の項目について進めてまいります。

- 部活動地域連携・地域移行協議会の実施
- 説明会(保護者・市民対象)の実施
- 地域移行に関する試行の実施、試行結果の検証(成果、課題)
- 外部視察(都内または近郊の先行地域)
- コーディネーターの実務(役割、配置人数、連絡・調整の時期や内容等、実務に関する年間スケジュール等)
- ガイドライン(市)の策定
- 地域移行実施に関する学校(生徒、保護者)への周知(希望調査等の実施、費用負担、申込時期等)

